別紙様式第１号

令和５年度（令和４年度第４四半期に係る） 配合飼料価格高騰緊急特別対策事業

参加申込書　兼　補塡金交付申請書

令和５年●月●日

（窓口団体）　●●●・・・農業協同組合

（代表者氏名）代表理事組合長　●●●●殿

住　所　 ●●県・・・・・

法人名 有限会社 ●●ファーム

　　　　　　　　　　　　　　　 氏名又は法人の代表者名 ●●●●

　令和５年度（令和４年度第４四半期に係る）配合飼料価格高騰緊急特別対策事業に参加したいので、配合飼料価格高騰緊急特別対策事業に関する実施要領第７の２の（１）の規定に基づき、申請します。

また、配合飼料価格高騰緊急特別対策事業補塡金（令和４年度第４四半期（令和５年　１月から３月））の交付対象となった場合は、下記のとおり補塡金の交付を併せて申請します。

なお、補塡金の振込先の金融機関の口座は、配合飼料価格差補塡金の振込先と同様であることを申し添えます。

記

○補塡金額（令和４年度第４四半期（令和５年１月から３月））

配合飼料価格差補塡基本契約に基づく配合飼料価格差補塡数量契約の令和４年度第４四半期（令和５年１月から３月）の配合飼料契約数量

の いずれか少ない数量

×８,５００円/トン

　又は

同四半期における配合飼料の購入数量

〇　要件の確認

本事業の申請に当たっては、以下のア及びイの①又は②を要件としていますので、各要件に同意される場合には、ア及びイの①又は②のいずれかの右欄の□にレ点を記入してください。

ア．情報（個人情報含む）の利用について

配合飼料価格安定制度における交付対象数量等並びにび令和４年度第３四半期（令和４年10月から12月）及び第４四半期（令和５年１月から３月）の配合飼料価格高騰緊急特別対策事業（以下「両事業」という。）に係る情報（個人情報を含む）について、農林水産省、振興機構、安定機構及び全国基金（又は全国基金が認める団体）が、両事業の執行のために必要な範囲で利用することに同意する。

上記アについて同意する　　　　　□

イ．生産コストの削減等の取組について

**① 令和４年度第３四半期の国の特別対策の交付の対象となった者（継続申請者）**

令和４年度第３四半期（令和４年10月から12月）の配合飼料価格高騰緊急特別事業で申請した生産コストの削減及び飼料自給率の向上のための取組を、令和５年度までに取り組み、少なくとも令和５年度末まで継続する。既に着手している取組をもって申請した場合には、少なくとも令和５年度まで継続する。

（こちらに該当する方は、次のページ以降の、生産コストの削減及び飼料自給率の向上のための取組確認表の提出は不要です。）

上記イの①について同意する　　　　　□

**② 令和４年度第４四半期から新たに申請する者（新規申請者）**

　　　 生産コストの削減及び飼料自給率の向上のための取組は、令和５年度までに取り組み、少なくとも令和５年度末まで継続する。既に着手している取組をもって申請する場合には、少なくとも令和５年度末まで継続する。

　　　　（こちらに該当する方は、次のページ以降の、生産コストの削減及び飼料自給率の向上

のための取組確認表を提出してください。）

上記イの②について同意する　 　 　□

**〇生産コストの削減及び飼料自給率の向上のための取組**　**確認表**

・本事業により着手する取組について、以下の（Ⅰ．畜種共通）、（Ⅱ．畜種別）の取組項目から１つ、（Ⅲ．配合飼料の使用量の低減）から１つ、計２つ選択すること。

・令和５年度までに取り組む場合及び既存の取組を令和５年度末まで継続する場合は□にレを記入すること。なお、その他の取組を選択する場合、□にレを記入した上で、具体的な内容を括弧内に記入すること。

**（Ⅰ．畜種共通）**

①　疾病・事故率などの低減

　　□　牛床マットやカウブラシ、分娩監視装置等飼養管理機器・資材の使用

□　事故率低減のための牛の削蹄の実施

□　事故率低減のため、獣医師の指導等による定期的な分娩監視

□　疾病の低減のため、ワクチンの接種

□　分娩監視装置等のＩＣＴ機器の導入

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②　暑熱・寒冷対策による生産性の改善

　　□　暑熱対策のために、牛床内における噴霧器、換気ファン等の使用　　　　　　　□　寒冷対策のために、牛衣（カーフジャケット）等を着用　　　　　　　　　　　□　暑熱・寒冷対策のために、外壁・屋根材に耐熱性（保温性）素材を使用　　　　□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③　国産飼料（エコフィード含む）の給与割合の増加

　　□　国産牧草（乾草・サイレージ）の給与割合を増やす

　　□　国産とうもろこし（青刈り・子実・イアコーン）の給与割合を増やす

□　エコフィード（豆腐粕・醤油粕等）の割合を増やす

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

④　副産物収入（堆肥販売、和牛受精卵の活用等）の増加による生産コストの削減

　　□　堆肥販売の増加による収入の増加により、生産費割合を圧縮する

　　□　和牛精液・和牛受精卵の活用による収入の増加により、生産費割合を圧縮する

　　□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**（Ⅱ．畜種別）**

酪農

⑤　□　牛群検定を活用した生産性の向上

⑥　分娩間隔の短縮

　　□　発情発見機を活用した発情の見逃し防止

□　早期離乳の実施

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑦　国産濃厚・粗飼料の生産・流通拡大（コントラクター活用等によるものを含む）

□　国産粗飼料の作付面積を拡げる

□　国産濃厚飼料の作付面積を拡げる

□　国産飼料の販売・流通量を増やす

□　ＴＭＲの利用量を増やす

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

肉用牛

⑧　肥育期間や子牛の出荷月齢の短縮

□　超音波測定を活用した出荷適期の判断

□　定期的な体高や体重等の測定

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑨　分娩間隔の短縮

□　発情発見機を活用

□　早期離乳の実施

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

豚

⑩　□　ベンチマーキングシステムを活用した生産コストの削減

⑪　□　人工授精を活用した生産コストの削減

⑫　□　優良系統の導入による生産性の向上

⑬　□　オールイン・オールアウトによる事故率の低減

採卵鶏・肉用鶏

⑭　□　優良系統の導入による生産性の向上

⑮　□　オールイン・オールアウトによる事故率の低減

**（Ⅲ．配合飼料の使用量の低減）**

⑯　国産高栄養粗飼料（青刈りとうもろこし、アルファルファ等）の利用による

配合飼料の使用量低減

　　□　青刈りとうもろこしの使用量を増やし、配合飼料の使用量を減らす

□　国産アルファルファの使用量を増やし、配合飼料の使用量を減らす

　　□　その他マメ科牧草の混播草地の利用を増やし、配合飼料の使用量を減らす

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑰　□　飼料成分分析に基づく飼料設計の改善

⑱　□　エサ寄せロボットの活用

⑲　□　自動給餌機の活用

⑳　□　搾乳ロボットの活用（飼料給餌機能付きのものに限る）

㉑　□　多回給餌

㉒　□　リキッドフィーディングの活用